

藤田 剛（和文誌編集委員会委員長）
事務局：松井 晋（事務局長）・片山直樹（会計幹事）・風間健太郎（記録・庶務幹事）

審議事項

- 1) 2022 年度途中での新任委員の承認
浦 達也氏（鳥類保護委員 2022.2.22-）・榮村奈緒子氏（企画委員 2022.4.1-）
- 2) 風力発電等対応ワーキンググループの設置
自然再生エネルギー関連施設建設計画が加速する中，鳥類に与える影響が時に大きなものになる場合があることから，それに対応するために，風力発電をはじめとする自然再生エネルギー関連施設計画に特化したチームを鳥類保護委員会内に立ち上げることが承認された。
 - (1) 鳥学会としての方針案の作成と風力発電等に対する指針の策定と情報発信を行う
 - (2) 浦 達也（新保護委員）・風間健太郎※（ワーキンググループ長）・佐藤重穂（現保護委員）・澤 祐介（現保護委員）・白木彩子（現保護委員）・先崎理之※・山口典之※（※は鳥類保護委員外）をメンバーとする
- 3) 大会常設委員会設置へ向けた大会常設委員会設置検討ワーキングの活動の継続
開催地の負担を減らすことや，それによる開催候補地を拡充することを目的とし，現行の大会規定，運営指針についても，常設委員会設置にともなう変更が出てくるため，それに即した内容になるように検討を行う大会常設委員会設置検討ワーキングの活動継続が以下のとおり承認された。
 - (1) 大会常設委員会の役割の検討，規定・運営指針新設，現在の大会規定・運営指針の検討を行う
 - (2) 植田睦之（代表），上野裕介，白木彩子，濱尾章二，早矢仕有子，山口典之をメンバーとする
 - (3) 2022 年大会評議員会で規約案および委員会委員案を提案し，常設委員会は総会での承認後，活動開始し，石川大会のサポートも行う。
- 4) 有料 Zoom アカウントの取得と会議予約システムの導入
事務局が代表として Zoom の有料アカウントを 1 つ取得して，必要に応じて Google カレン

日本鳥学会 2022 年度第 1 回評議員会報告

日 時：2022 年 2 月 21 日（月）10:00-12:00

場 所：オンライン

出席評議員：綿貫 豊（議長・会長）・嶋田哲郎（副会長）・植田睦之・尾崎清明・川上和人（基金運営委員会委員長）・齋藤武馬・高木昌興・永田尚志・西海 功（目録編集委員会委員長・鳥類分類委員会委員長）・濱尾章二・早矢仕有子・三上修・山口典之

各種委員会代表等：武石全慈（鳥類保護委員会委員長）・牛山克巳（企画委員会委員長）・

ダーとメールアドレスから各種委員会が遠隔での会議を予約できるシステムの導入が承認された。

報告事項

事務局から 2022 年度大会準備状況、日本鳥学会の法人化について、鳥学会 HP での「年会費」の支払い方法の追加説明、入会申込書の変更、持続可能な発展のための国際基礎科学年への協力、日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について、春恒社との追加契約（海外発送不可となった冊子の保管と再発送）、メール転送について、岡田基金の設立と基金運営委員会での管理、和文誌投稿・査読のオンラインシステム導入（契約済）、監事の事務局会議オブザーバー参加について報告があった。西海氏から目録進捗状況の報告があった。

日本鳥学会 2022 年度第 2 回評議員会報告

日 時：2022 年 8 月 3 日（水）10:00-12:40

場 所：オンライン

評議員：綿貫 豊（議長・会長）・嶋田哲郎（副会長）・植田陸之・尾崎清明・亀田佳代子・川上和人（基金運営委員会委員長）・齋藤武馬・高木昌興・永田尚志・西海 功（目録編集委員会委員長・鳥類分類委員会委員長）・濱尾章二・早矢仕有子・三上 修・山口典之

事務局：松井 晋（事務局長）・風間健太郎（記録・庶務幹事）

審議事項

- 1) 2022 年第 2 回評議員会議事録と議事要旨
前回議事録と議事要旨の内容は承認された。
- 2) 2022 年度大会のキャンセルポリシーとコロナ感染対策の会員周知
キャンセルポリシーとコロナ感染対策について会員周知することが承認された。
- 3) 2022 年度総会の開催形態
2022 年度総会を書面決議にすることが承認された。
- 4) 日本鳥学会の法人化について
学会の法人化をめざし調整を進めることが承認された。
- 5) 規約 第 6 章役員会 第 13 条 4-5 の改定
規約改定の手続きを進めることが承認された。
- 6) 丸善からの鳥類学辞典について

丸善に鳥学会で編集母体となって制作を進めることは難しい旨返答することが承認された。

7) その他

山崎剛史氏（自然史学会連合担当）より、自然史連合より加盟学協会に依頼のあった「博物館法の一部改正に対する要望・声明（案）」についての議題提案があり、これについて格段の反対意見はなく、対外的に発表することに賛同することとした。

報告事項

学会賞の募集方法、大会常設委員会準備ワーキング、科学研究費補助金事務にかかる運営指針案、風力等対応 WG の学会方針策定の進捗状況と今後のスケジュール、鳥類目録の進捗状況、朝倉書店「野生動物の保全と管理の事典」（仮称）出版への編集協力依頼、朝日賞推薦依頼について報告があり、意見交換があった。

日本鳥学会 2022 年度第 3 回評議員会報告

日 時：2022 年 10 月 5 日（水）16:00-19:20

場 所：オンライン

評議員：綿貫 豊（議長・会長）・嶋田哲郎（副会長）・植田陸之（大会常設委員会準備ワーキング代表）・亀田佳代子・川上和人（基金運営委員会委員長）・齋藤武馬・高木昌興・西海 功（目録編集委員会委員長・鳥類分類委員会委員長）・濱尾章二・早矢仕有子・三上 修・森 さやか・山口典之

各種委員会委員長：水田 拓（英文誌編集委員会委員長）、藤田 剛（和文誌編集委員会委員長）、武石全慈（鳥類保護委員会委員長）、金井 裕（日本産鳥類記録委員会副委員長）、佐藤 望（企画委員会委員長）、上沖正欣（広報委員会委員長）

事務局：松井 晋（事務局長）・片山直樹（会計幹事）・風間健太郎（記録・庶務幹事・風力発電等対応 WG 長）

監 事：秋山幸也・森口紗千子

2022 年度大会実行委員会：大河原恭祐（大会会長）

審議事項

- 1) 2022 年第 3 回評議員会議事録と議事要旨
前回議事録と議事要旨の内容は承認された。

- 2) 2023 年度大会開催
2023 年度大会開催について承認された。
- 3) 2024 年度大会開催候補地
2024 年度大会を東京大学で開催することが承認された。
- 4) 2023 年度予算案（会計幹事）
2023 年度予算案が承認された。
- 5) 英文誌のペーパーレス化に向けた検討グループ
英文誌のペーパーレス化に向けた検討グループの立ち上げが承認された。
- 6) 英文誌編集委員会に関する審議事項
Dropbox の契約、剽窃検知ツール導入、別刷り PDF カラー出力サービスの有料化について承認された。
- 7) 次期委員会体制
次期委員会体制は承認された。
- 8) 大会支援委員会規定（新規）、大会支援委員会内規（新規）、大会規定改定案、大会運営指針改定案
大会支援委員会規定と大会支援委員会内規の新規策定、大会規定と大会運営指針の改定が承認された。大会支援委員会の委員についても承認された。
- 9) 日本鳥学会ポスター賞規定改定案
規定改定案が承認された。
- 10) 日本鳥学会内田奨学賞規定改定案
内田奨学賞の規定改定案が承認された。
- 11) 日本鳥学会基金運用規定改定案
基金運用規定改定案が承認された。
- 12) 風力発電の導入についての日本鳥学会の基本理念の総会決議
提案に対して指摘があったため改めてメールによる審議を行った。提案は「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的考え方」に変更され、承認された。
- 13) 日本鳥学会の法人化
提案に対して指摘があったため改めてメールによる審議を行った。日本鳥学会の法人化についての提案は承認された。
- 14) オンライン・鳥類学交流会の後援依頼
後援について指摘があり後援依頼書を請求の上、メールにて承認を得た。

報告事項

各種委員長より委員会の報告、事務局より会員動向、会計、および書面総会の進め方につ

いて報告と説明があった。特段の意見はなかった。

日本鳥学会 2022 年度総会議決報告

日時：2022 年 11 月 10 日（木）-11 月 30 日（水）

決議：Web または書面

以下の議事が審議され、12 月 16 日付で承認された。

- 1) 2021 年度決算
- 2) 2023 年度予算
- 3) 会則第 6 章役員会第 13 条の改定
- 4) ポスター賞規定第 4 条の改定
- 5) 内田奨学賞規定第 2 条の改定
- 6) 基金運用規定第 5 条と第 10 条の改定
- 7-1) 大会支援委員会の新設とその規定
- 7-2) 大会規定第 4-16 条の改定
- 8) 風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方
- 9) 日本鳥学会の法人への移行

和文誌編集委員会報告

1) 発行状況

71 巻 1 号を 2022 年 4 月に 71 巻 2 号を 2022 年 10 月に発行した。Editor's Choice 「注目論文」はそれぞれ、濱尾章二さんによる「鳥の巣と昆虫の関係：鳥の繁殖活動が昆虫の生息場所を作り出す」と藤巻裕蔵さんによる「北海道における鳥類の繁殖期の分布」に決まった。

71 巻 1 号（4 月）原著 2，短報 1，観察記録 5

71 巻 2 号（10 月）モノグラフ 1，原著 3，短報 5，観察記録 5

2) 投稿・編集状況

今年度の編集状況は、下表のとおりである。通常の投稿原稿数は順調である。通常の投稿原稿数は順調である。総説の区分に入っているが、藤巻裕蔵さんによるモノグラフ「北海道における鳥類の繁殖期の分布」が掲載された。新投稿・査読システム ScholarOne の導入は順調に進み、今年度投稿された原著論文と短報はすべてこのシステムから投稿されている。

	総説	原著	短報	技術報告	観察記録
繰越し	1	3	4	0	7
投稿	1	13	6	1	6
受付	1	13	6	1	6
受理	2	8	6	1	5
編集中	0	7	4	0	6
不受理	0	1	0	0	1

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間 (2021 年 1 月 -2021 年 12 月) の和文誌掲載論文 (2006 年第 55 巻 -2021 年第 70 巻) に対する全文 PDF アクセス数 (クローラー除く) は、昨年 (92,278 件) の約 0.83 倍にあたる 77,329 件だった。国別内訳は昨年同様、日本が多数を占め (57,582 件; 74.4%), アメリカがこれにつき (13,013 件; 16.8%), ドイツ, 中国が続いた。国外からのダウンロードの比率はここ数年, 19% (2018), 22.0% (2019), 22% (2020), 25.5% (2021) と徐々に上昇している。

(和文誌編集委員長)

英文誌編集委員会報告

1) 発行状況

第 21 巻 1 号 (原著 9 編, 総説 1 編, 短報 2 編) を 2022 年 1 月に, 2 号 (原著 8 編, 短報 5 編) を 7 月に発行した。Editor's Choice はそれぞれ, P. M. Vaughan 氏らによるタスマニアにおいて哺乳類を対象とした自動撮影カメラで二次的に撮影された鳥類の行動を分類した論文と, S. Deguchi 氏らによるノジコの繁殖分布に気温や積雪量が影響していることを解明した論文とした。

2) 編集状況

2021 年 1 月 -12 月

総投稿数 29 (前年比 0.66 倍)

受理数 8 採択率 57.1.5% [受理数 / (総投稿数 - 審査中数 - 取り下げ数)]

審査中 15

取り下げ 0

却下数 6 (うち編集委員会却下数 4)

前年に比べ投稿数は減少した。2 年連続の減少であり, 注視が必要である。昨年同様, 査読まで回らず編集委員会内の審査で却下された論文の割合が多く, 投稿数の増加だけでなく投稿論文の質の底上げが引き続き重要な課題である。

3) その他

2021 年 7 月 -2022 年 6 月の電子版アクセス状況は, 資料トップへは昨年比 18% 増の 5,825 件, 全文 PDF へは 22% 減の 17,930 件であった。2021 年のインパクトファクターは 0.795 (Ornithology カテゴリ 31 誌中 21 位) で, 昨年に比べ微減したが, 昨年は出版前オンライン発表論文のカウント方法が変わったために, 基本的に IF が上昇する年だった (この 3 年間の推移は 0.705 → 0.886 → 0.795)。順位も下がっているが, この程度の変動は他誌でも見られ, IF, 順位とも大きな変化はなく例年並みと思われる。

(英文誌編集委員長)

鳥類保護委員会報告

1) 過去の総会決議意見書及び委員長意見書に関する現状報告

総会決議意見書の苦東厚真風力発電事業 (2021 年 11 月 25 日発出) 及び上関原子力発電所建設計画 (2008 年 9 月 14 日), 委員長意見書の秋田県由利本荘市沖洋上風力発電事業 (2020 年 2 月 3 日及び同年 3 月 16 日), 太陽光発電施設法制度整備 (2019 年 6 月 3 日), 岩手県北上高地イヌワシ生息地保全 (2017 年 7 月 10 日), 北海道北部地域風力発電施設建設計画 (2017 年 7 月 10 日), 伊豆諸島御蔵島オオミズナギドリ集団繁殖地保全 (2016 年 11 月 9 日) について各委員から報告が行われた。

2) 風力発電に関する鳥学会基本理念について

風力発電等対応ワーキンググループの風間グループ長から, 風力発電に関する学会基本理念策定の方向性とスケジュールについて報告があった。また, 同グループの設立趣旨と活動内容の HP 掲載の提案が了承され保護委員会のページに掲載された。その後, 学会基本理念案は評議員会で検討され書面総会において「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」として採択された。過去に発出された風力発電に関する意見書案件のフォローアップについては, 引き続き委員会が対応することとした。

なお, 風力発電等対応ワーキンググループによって, 大会自由集会「日本鳥学会風力発電等対応ワーキンググループの設立と学会基本理念の策定」も開催された。

3) 保護委員会規定の改正案について

委員の再任禁止規定の導入とワーキンググループ設置に関する条項案文の検討が行われた。

4) 意見書作成手続きの内規案について

総会決議意見書及び委員長意見書の作成手続き

についての内規案を検討した。また、関連して「総会決議についての鳥類保護委員会の考え方(2013年)」の修正の必要性についても提起された。

5) 鳥類保護案件の総会決議の申し込みについて
8月25日締め切りでの申し込みはなかった。また、鳥学会会員より「海鳥の集団繁殖地におけるネズミ等の外来種駆除の必要性」に関する意見書発出が要望されており、委員長意見書扱いとして検討していくこととした。

6) 委員の退任・新任について

退任希望者については来年の任期切れの際の退任として、その間の移行期間の意味も含めて新任の委員及びオブザーバーの案が了承された。

(鳥類保護委員長)

日本産鳥類記録委員会報告

日本産鳥類記録委員会は、2022年度において以下の活動を行った。委員会はオンラインにて開催した。

1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応
目録第7版の記述のうち、各地の生息記録に関する一般、もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った。

2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録第6版から第7版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い、資料として整理する作業を実行中である。

3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録、各地鳥類相、標本目録等の記述が掲載されている、日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様、ある程度まとまりがついたところで、随時和文誌上に公表していく予定である。

4) 日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録(インターネット上に公表された記録、個人的伝聞による記録など)についての情報の収集と整理を行った。

5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力
当委員会の委員を通して要請があった場合に限って、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。

6) 目録第8版編集について

目録第8版の編集について、記録委員会委員は目録編集委員として各地の記録収集と整理にあ

たった。

(日本産鳥類記録委員長)

鳥類分類委員会報告

分類委員会では、メンバーの全員が目録編集委員会の委員を兼務していたため、日頃の分類委員会の活動に加え、目録編集作業のための作業を行っている。今年度は月に1-2回程度、1回につき約2時間の作業をオンライン会議で行った。具体的な作業としては主に、次版第8版に掲載される種のリスト作成とその学名の検討である。そのため、分類の検討については最新の海外の分類チェックリストや文献を参照し検討した。またそれに伴い、分布域の確認や和名の検討、上位分類の検討などについても併せて行った。第2回のパブリックコメントに向けて目録掲載種の分類の最終検討を現在進めている。

(鳥類分類委員長)

目録編集委員会報告

目録第8版出版に向けた編集作業は分類と(分布)記録それぞれの委員会で定期的にオンライン会議をもってもらい進めてきたが、目録委員会全体ではオンライン会議を2か月に1回の頻度で開催した。第2回パブリックコメントに向けての準備のうち、学名に変更のない種の分布域の確認と上位分類の検討および地域記録の相互確認と海洋分布の検討がずれ込み、パブリックコメントは2023年の春に実施し、出版を9月の大会で販売できるよう計画を立て直した。出版延期のお知らせは8月に学会HPに掲載し、同時に委員長名で鳥学通信に目録第8版の編集についての記事を掲載した。11月の網走大会では、昨年に引き続き自由集会をもって、編集の状況と第2回パブコメについて説明し、学会員と意見交換をした。

(目録編集委員長)

企画委員会報告

1) 鳥の学校

日本鳥学会2022年大会にあわせて鳥の学校(第13回テーマ別講習会)「鳥類研究のための空飛ぶドローン講座」を開催した。

2) 男女共同参画関連

第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2022年10月8日、オンライン開催)に委員が参加した。男女共同参画学協会連絡会定時総会と運営委員会に委員がオブザーバ参加した。

3) 日本鳥学会ポスター賞の実施

2022 年度大会にあわせて第 6 回日本鳥学会ポスター賞を実施した。「①繁殖・生活史・個体群・群集」「②行動・進化・形態・生理」「③生態系管理／評価・保全・その他」の 3 部門に対して各 1 名の受賞者を選定し、公表した。

4) その他

2022 年度大会で設けられた Druid Award の選考に協力した。

(企画委員長)

広報委員会報告

1) ウェブサイトの更新

事務局、各委員会などから月に数回の更新依頼があり、ほぼ数日以内に処理できている。セキュリティ強化のため、ウェブサイトの SSL 化をおこなった。アクセス解析によると 1 日に約 800 件 (24,000 件／月) の訪問があり、大会開催月はアクセス数が約 2 倍増加する。閲覧数が多いのは日本鳥類目録とリンク・研究室情報のページとなっている。更新作業軽減のため、各種お知らせおよび鳥学通信の WordPress 移行を検討することとなった。

2) 鳥学通信の発行

概ね月 2 報の目標を達成すべく、ユーザーの関心の高い内容の掲載記事案を共有し、原稿依頼を委員間で分担して行っている。アクセス解析によると 1 日に約 100-200 件 (3,000 件／月) の訪問がある。最新記事だけでなく、過去記事についても検索エンジンから頻繁にアクセスされている。

3) 広報委員会運営 SNS の運用状況

Facebook と Twitter で、鳥学通信の新規記事、大会事務局や学会事務局からのお知らせの一部を配信している。昨年の報告からフォロワー数は両 SNS とも 200 名ほど増加し Facebook が 2,344 名、Twitter が 3,120 名となっており (2022 年 12 月 21 日現在)、鳥学会の活動内容を一般へ広報する重要な役割を果たしている。

4) 2022 年度大会へのウェブサイトとメールアドレスの提供

大会実行委員会からの要請に基づき、大会ウェブサイト用のテンプレートとサーバースペース、大会事務局用メールアドレスを提供した。

5) 委員の退任

広報委員を連続 8 期務められた高須夫悟氏が 2022 年末をもって退任された。

(広報委員長)

基金運営委員会報告

1) 2022 年度学会賞

学会賞受賞候補者として黒田賞は安藤温子氏、内田奨学賞は藤岡健人氏を選定し、評議員会で承認された。中村司奨励賞は該当者がなかった。詳細は前号 (日本鳥学会誌 71 巻 2 号) で報告済み。

2) 2022 年度津戸基金助成

2021 年度は津戸基金を募集したものの応募がなかったため、2022 年度に再募集を行った。その結果、「東アジアにおけるガン類の適正な保全と管理へ向けた国際シンポジウム」を助成候補として選定し、評議員会で承認された。詳細は前号 (日本鳥学会誌 71 巻 2 号) で報告済み。

3) 2023 年度学会賞等

黒田賞、内田奨学賞、中村司奨励賞の募集を開始した。津戸基金によるシンポジウム開催助成の募集を開始した。内田奨学賞で対象とするアマチュア研究者についての考え方をウェブサイトに掲載した。

(基金運営委員長)